

福岡市が管理運営するホームページにかかる  
アクセシビリティ対応基準書  
(外部発注用)

2018年12月

# 本書の位置づけ

## ●本書の位置づけ

福岡市が管理運営するホームページの作成にあたっては、提供する情報やサービスを高齢者や障がい者を含めた誰もが支障なく利用できるよう、ウェブアクセシビリティに十分配慮する必要がある。

なお、福岡市が管理運営するホームページとは、福岡市が作成するすべてのホームページのことであり、ウェブアクセシビリティへの対応が求められている対象は、いわゆる公式ホームページだけでなく、業者に委託するなどにより各部署で独自に作成・管理運営するホームページも含む。

「福岡市が管理運営するホームページにかかるアクセシビリティ対応基準書」（以下、本書）は、「福岡市ホームページアクセシビリティガイドライン」が掲げる項目のうち、ウェブアクセシビリティに特化した技術的解説書として、JIS X 8341-3:2016 適合レベル AA 準拠を実現するために、ホームページを業者に委託し作成・管理運営する場合に活用するものである。

## ●根拠となる JIS 規格『JIS X 8341-3:2016』と関連法規について

JIS X 8341-3 は、情報アクセシビリティの日本工業規格（JIS）である「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス」の個別規格として 2004 年に初めて公示されたもので、ホームページ等を高齢者や障がい者を含む誰もが利用できるものとするための基準が定められている。その後、2 度の改正を経て、2016 年 3 月に JIS X 8341-3:2016 として改正されたものが現在の最新版である。JIS X 8341-3:2016 は、ウェブアクセシビリティの国際的なガイドライン『WCAG 2.0』が ISO/IEC の国際規格として承認されたことを受けて、その規格に一致するように文書構成や用語が変更されたもので、国、地方公共団体等の公的機関ホームページは JIS X 8341-3:2016 に対応することが求められている。

また、総務省は、国及び地方公共団体等の公的機関が JIS X 8341-3:2016 に基づきウェブアクセシビリティへの対応を進めるための実施項目や手順、重視すべき考え方等をまとめた「みんなの公共サイト運用ガイドライン」を 2016 年 3 月に改正・公表している。福岡市ホームページはこの「みんなの公共サイト運用ガイドライン」に従いウェブアクセシビリティを確保している。

さらに、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（通称：障害者差別解消法）

が2016年4月に施行され、市としても「福岡市障がいを理由とする差別をなくし障がいのある人もない人もともに生きるまちづくり条例」（通称：福岡市障がい者差別解消条例）を2019年1月に施行することから、障がいを理由とする情報の伝わりにくさ等が生じないように、ホームページを作成・運営管理する必要がある。

## ●達成方法について

JIS X 8341-3:2016を理解するために必要な解説や技術情報、JIS X 8341-3:2016に基づいた取組を実践する際に推奨されるルール等を、JIS X 8341-3:2016の原案作成を担当した情報通信アクセス協議会ウェブアクセシビリティ基盤委員会が作成し公開しており、本書はウェブアクセシビリティ基盤委員会の「WCAG2.0 解説書」「WCAG2.0 達成方法集」に基づき、構築において採用すべき達成方法を示している。福岡市ホームページの構築は、本書が示す達成方法により実施する。

なお、「WCAG2.0 解説書」には、JIS X 8341-3:2016の各達成基準を実現するための達成方法について本書で採用した以外の方法も説明されている。本書が示す達成方法では対応できないコンテンツがある場合には、「WCAG2.0 解説書」に示された方法から達成方法を追加することができる。達成基準を満たすための方法が他にあるならばその方法を採用することも可能であるが、受注者は基本要件に示す環境において問題のないことを十分に確認し、福岡市に事前に相談の上で行なう。

## ●参照すべき規格及び文書

JIS X 8341-3:2016（日本工業標準調査会「JIS 検索」でJIS規格番号「X8341-3」を検索することで閲覧できます）

(<http://www.jisc.go.jp/app/jis/general/GnrJISSearch.html>)

WCAG2.0 解説書

(<https://waic.jp/docs/UNDERSTANDING-WCAG20/Overview.html>)

WCAG2.0 達成方法集

(<https://waic.jp/docs/WCAG-TECHS/Overview.html>)

みんなの公共サイト運用ガイドライン（総務省2016年版）

([http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/guideline.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html))

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（内閣府）

([http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/law\\_h25-65.html](http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/law_h25-65.html))

# 目次

本書の位置づけ .....	1
目次 .....	3
1. 基本要件 .....	5
1.1 構築に用いる技術 .....	5
1.2 対応ブラウザ .....	6
2. ウェブアクセシビリティ対応基準 .....	7
達成基準 1.1.1 非テキストコンテンツ .....	7
達成基準 1.2.1 音声のみ及び映像のみ（収録済） .....	12
達成基準 1.2.2 キャプション（収録済） .....	13
達成基準 1.2.3 音声解説，又はメディアに対する代替（収録済） .....	14
達成基準 1.2.4 キャプション（ライブ） .....	15
達成基準 1.2.5 音声解説（収録済） .....	16
達成基準 1.3.1 情報及び関係性 .....	17
達成基準 1.3.2 意味のある順序 .....	21
達成基準 1.3.3 感覚的な特徴 .....	22
達成基準 1.4.1 色の使用 .....	23
達成基準 1.4.2 音声の制御 .....	24
達成基準 1.4.3 コントラスト（最低限） .....	25
達成基準 1.4.4 テキストのサイズ変更 .....	26
達成基準 1.4.5 文字画像 .....	27
達成基準 2.1.1 キーボード .....	28
達成基準 2.1.2 キーボードトラップなし .....	29
達成基準 2.2.1 タイミング調整可能 .....	30
達成基準 2.2.2 一時停止，停止，非表示 .....	31
達成基準 2.3.1 3 回の閃光，又は閾値以下 .....	32
達成基準 2.4.1 ブロックスキップ .....	33
達成基準 2.4.2 ページタイトル .....	34
達成基準 2.4.3 フォーカス順序 .....	35
達成基準 2.4.4 リンクの目的（コンテキスト内） .....	36
達成基準 2.4.5 複数の手段 .....	38
達成基準 2.4.6 見出し及びラベル .....	39
達成基準 2.4.7 フォーカスの可視化 .....	40
達成基準 3.1.1 ページの言語 .....	41

達成基準 3.1.2 一部分の言語 .....	42
達成基準 3.2.1 フォーカス時 .....	43
達成基準 3.2.2 入力時 .....	44
達成基準 3.2.3 一貫したナビゲーション .....	45
達成基準 3.2.4 一貫した識別性 .....	46
達成基準 3.3.1 エラーの特定 .....	47
達成基準 3.3.2 ラベル又は説明 .....	48
達成基準 3.3.3 エラー修正の提案 .....	50
達成基準 3.3.4 エラー回避（法的, 金融, データ） .....	51
達成基準 4.1.1 構文解析 .....	52
達成基準 4.1.2 名前 (name)・役割 (role) 及び値 (value) .....	53
3. ホームページ構築・運営上必要な取組み .....	54
3.1 アクセシビリティ方針の策定・公開 .....	55
3.2 取組内容及び実現内容の確認・公開 .....	56
3.3 実現内容の確認（試験）・公開 .....	58

# 1. 基本要件

## 1.1 構築に用いる技術

最新の JIS 基準（現行は JIS X 8341-3:2016）適合レベル AA 準拠が実現できる制作技術で構築する。

具体的にはこの資料で規定されているアクセシビリティ項目を全て実現でき、対応範囲と定めたブラウザや音声読み上げソフト、キーボード操作などの動作を妨げることがないことを前提とする。

HTML については、納品前に以下のサービスを利用し、問題がないというメッセージが表示されることを確認する。（エラーが発生する場合には、技術や条件が許す限りにおいて修正する。）

W3C Markup Validation Service (<http://validator.w3.org/>)

CSS については、納品前に以下のサービスを利用し、問題がないというメッセージが表示されることを確認する。（エラーが発生する場合には、技術や条件が許す限りにおいて修正する。）

W3C CSS Validation Service (<http://jigsaw.w3.org/css-validator/>)

## 1.2 対応ブラウザ

以下のブラウザで、概ね同じ表示がなされるよう作成する。

なおレスポンシブ対応などスマートフォンやタブレットでの表示も受注対象の場合には、Android と iOS それぞれの実機での確認も行うこととする。

### ■Windows

- Internet Explorer 最新版
- Microsoft Edge 最新版
- Firefox 最新版
- Opera 最新版
- Google Chrome 最新版

### ■Mac

- Firefox 最新版
- Opera 最新版
- Google Chrome 最新版
- Safari 最新版

### ■Android

- Android ブラウザ最新版
- Chrome 最新版

### ■iOS

- Safari 最新版

少なくとも以下のいずれかの最新版音声読み上げソフトで、内容に過不足無く、読み上げの順序と意味の順序に整合性が取れていることを確認する。

- PC-Talker 最新版
- NVDA 最新版
- VoiceOver 最新版

## 2. ウェブアクセシビリティ対応基準

### 達成基準 1.1.1 非テキストコンテンツ

【レベル：A】

テキスト以外の情報について、以下の方法で代替する。

#### ●画像

##### 画像を提供する場合の原則

全ての画像には必ず alt 属性を指定する。

例)

```

```

#### 【WCAG2.0 達成方法】

H37: img 要素の alt 属性を用いる (HTML)

##### 短い説明で代替が可能な画像の場合

利用者にとって情報として意味を持った画像は、その画像と同じ目的及び情報を伝えるテキストを alt 属性として指定する。

例) ロゴ、テキストが含まれる画像など

コンテンツを理解する上で重要なテキストが含まれている画像には、そのテキストを含めて alt 属性を指定

例) リンクが設定された画像、解説のためのイラストなど

画像自体の視覚的な特徴を説明するのではなく、画像と同じ意味を伝える alt 属性を指定

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G94: 非テキストコンテンツに対して、それと同じ目的を果たし、かつ同じ情報を示す、簡潔なテキストによる代替を提供する



## 複雑な説明が必要な画像の場合

複雑な説明が必要な画像の場合は、簡潔な名称や説明のみを alt 属性で指定し、完全な説明は、ページ本文内にテキストで配置する。

例)

グラフ画像，地図画像，長い文章や表を画像化したもの，フローやチャートを表した画像など

### 【WCAG2.0 達成方法】

G95: 非テキストコンテンツの簡単な説明を提供する，簡潔な代替テキストを提供する

G74: 短い説明の中で長い説明のある場所を示して，非テキストコンテンツの近くにあるテキストで長い説明を提供する

## 情報として意味のない画像の場合

情報として意味のない画像は、「alt=""」と指定する（ダブルコーテーションの中に何も書かない）。あるいは CSS から画像を読み込み表示する。

例)

配置を制御するための透明な画像，雰囲気表現しただけで特にテキスト化して伝える意味がない（アイコンや装飾用のイラスト）画像など

### 【WCAG2.0 達成方法】

H67: 支援技術が無視すべき画像に対して，img 要素の alt テキストを空にして，title 属性を付与しない (HTML)

C9: 装飾目的の画像を付加するために，CSS を使用する (CSS)

## リンク画像

リンク画像の alt 属性には，利用者がリンク先のページの内容を想像できる言葉を指定する。具体的には以下の点に注意する。

- リンク先ページのページタイトル(title 要素)や大見出し (h1 要素) の内容など，リンク先ページの内容を代表するような言葉を用いる。
- 画像だけにリンクが設定されている場合，alt=""とはしない。

同じページへ移動するリンク画像とリンクテキストを隣り合わせて掲載する場合は、以下のとおりとする。

- リンクテキストには、利用者がリンク先のページの内容を想像できるような言葉を用いる。
- 両者を a 要素で括り一つのリンクとする。
- その場合、リンク画像の alt 属性は alt="" と指定する。(ダブルコーテーションの中に何も書かない。)
- HTML ではないファイルへのリンク、別ドメインサイトにリンクする場合のリンク画像の alt 属性の指定方法については、達成基準 2.4.4「リンクの目的(コンテキスト内)」参照。

**【WCAG2.0 達成方法】**

H2: 同じリソースに対して隣接する画像とテキストリンクを結合する (HTML)

H37: img 要素の alt 属性を用いる (HTML)

H30: a 要素のリンクの目的を説明するリンクテキストを提供する (HTML)

## 送信／実行ボタンの画像

type 属性が "image" である input 要素において、input 要素の alt 属性でボタンの機能を説明する。

例)

```
<input type="image" name="submit" src="****.gif" alt="送信／実行" />
```

**【WCAG2.0 達成方法】**

H36: 送信ボタンとして用いる画像の alt 属性を使用する (HTML)

## CSS を用いた画像表示

CSS を用いて画像を表示させる場合、画像は重要な情報を伝えていないか、または画像が表示されない場合も利用者に情報が伝わるようになっている。

### <よくある失敗例>

F3: 達成基準 1.1.1 の失敗例 – 重要な情報を伝える画像を付加するために、CSS を使用している

## イメージマップ

area 要素を使ってイメージマップを用意する場合は、マップの画像に alt 属性を指定するとともに、各 area 要素に対して利用者がリンク先ページの内容を想像できるような言葉を指定する。

### 【WCAG2.0 達成方法】

H24: イメージマップの area 要素にテキストによる代替を提供する (HTML)

## ●入力フォーム

入力フォームは、入力欄（選択欄）とその名称（ラベル）を、label 要素を用いて指定する。

input type="checkbox"または input type="radio"の場合は label 要素は input の後に配置する。

キーワード検索機能の入力欄など、名称（ラベル）を表記することが視覚的なデザイン上適当でないと考えられる場合や名称（ラベル）を表示することで混乱を引き起こしてしまう場合は、title 属性を用いて名称（ラベル）を指定する。

送信あるいは実行等のボタン画像に alt 属性を指定し、適切な内容を記載する。

### 【WCAG2.0 達成方法】

H44: テキストラベルとフォームコントロールを関連付けるために、label 要素を使用する (HTML)

H65: label 要素を使用できない場合に、フォームコントロールを特定するために、title 属性を使用する (HTML)

H36: 送信ボタンとして用いる画像の alt 属性を使用する (HTML)

## ●object 要素を用いる場合

object 要素を用いる場合は、object 要素のボディに代替テキストを記述する。

例)

```
<object classid="http://xxxxxxx.xxx/xxxx">  
  <p>ここにオブジェクトとその操作方法に関するテキストを書く。</p>  
</object>
```

### 【WCAG2.0 達成方法】

H53: object 要素のボディを使用する (HTML)

## 達成基準 1.2.1 音声のみ及び映像のみ（収録済）

【レベル：A】

### ●収録済みの音声しか含まないコンテンツ

音声で提供されている内容について同一ページ内にテキストを記述するか、テキスト化したページを併せて用意し、ページへのリンクを記述する。

外部の配信サービスを活用して提供する場合も同等の対応を行なう。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G158: 音声のみの時間依存メディアに対する代替コンテンツを提供する

### ●収録済みの映像しか含まないコンテンツ

映像で提供されている内容について同一ページ内にテキストを記述するか、テキスト化したページを併せて用意し、ページへのリンクを記述する。

もしくは、映像に含まれている情報を説明する音声（MP3など、インターネット上で一般的に使われているフォーマットのもの）を提供する。

外部の配信サービスを活用して提供する場合も同等の対応を行なう。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G159: 映像のみの時間依存メディアに対する代替コンテンツを提供する

G166: 重要な映像コンテンツを説明する音声を提供する

## 達成基準 1.2.2 キャプション（収録済）

【レベル：A】

映像内の音声で提供されている内容について、キャプション（発話以外の重要な音の情報を含む字幕）を提供する。

外部の配信サービスを活用して提供する場合も同等の対応を行なう。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G93: オープン（常に見える）キャプションを提供する

G87: クローズドキャプションを提供する

## 達成基準 1.2.3 音声解説，又はメディアに対する代替（収録済）

【レベル：A】

映像で提供されている内容について以下のいずれかの対応を行なう。

- 同一ページ内にテキストを記述するか，テキスト化したページを併せて用意し，ページへのリンクを記述する。
- コンテンツを理解するにあたって重要な行動，登場人物，場面の变化，及びスクリーン上のテキスト（キャプション以外の文字）などの情報を，音声ガイドで提供する。

外部の配信サービスを活用して提供する場合も同等の対応を行なう。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G69：時間依存メディアに対する代替コンテンツを提供する

G58：非テキストコンテンツのすぐ隣に，時間依存メディアの代替へのリンクを配置する

G78：音声解説を含んだ，利用者が選択可能な副音声トラックを提供する

## 達成基準 1.2.4 キャプション（ライブ）

【レベル：AA】

ライブ（生放送、生中継）映像内の音声で提供されている内容について、キャプション（発話以外の重要な音声情報を含む字幕）を提供する。

外部の配信サービスを活用して提供する場合も同等の対応を行なう。

### 【WCAG2.0 達成方法】

- G9: ライブの同期したメディアに対してキャプションを作成する
- G93: オープン（常に見える）キャプションを提供する
- G87: クローズドキャプションを提供する



## 達成基準 1.2.5 音声解説（収録済）

【レベル：AA】

映像で提供されている内容について、動き、登場人物、シーンの変化、画面上の文字に関する情報のうち、コンテンツを理解する上で重要で、かつ主音声では説明又は話されていない情報を、音声解説で提供する。

外部の配信サービスを活用して提供する場合も同等の対応を行なう。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G78: 音声解説を含んだ、利用者が選択可能な副音声トラックを提供する

## 達成基準 1.3.1 情報及び関係性

【レベル：A】

### ●共通する原則

配置や見映えは原則としてスタイルシートで指定する。

HTML の非推奨要素，属性は使用しない。

視覚的な情報（テキストの書式等）のみに依存した情報提供はしない。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

- G140: 異なる提示を可能にするために，情報と構造を表現から分離する
- G115: 構造をマークアップするために，セマンティックな要素を使用する
- G117: テキストの提示のバリエーションによって伝えている情報を伝達するために，テキストを使用する

### ●ページ内の見出し

文書内の見出しは，見た目だけを見出し風にするのではなく，見出しに相当する画像及びテキストに見出し要素（h1～h6）を指定する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

- H42: 見出しを特定するために，h1 要素～ h6 要素を使用する（HTML）

### ●ページ内の箇条書き

文書内の箇条書きは，見た目だけを箇条書き風にするのではなく，HTML の箇条書きの要素（ul，ol，dl）を指定する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

- H48: リスト又はリンクのグループに，ol 要素，ul 要素，dl 要素を用いる（HTML）

## ●表

表を作成する場合は、できる限りセルの結合は行わない。具体的には以下のような対応を行う。

- 見出しセルが結合されている場合には以下のようにする。
  - (1) 対応するデータセルを適宜まとめて見出しセルの結合をなくす
  - (2) そこで表を分割し、各表の caption 要素には見出しセルの内容を記述する
- データセルが結合されている場合には、セルの結合を解除し、各セルには同じ内容を記述する。
- 表の読み上げ順序に十分配慮し、行と列の入れ替えなどが必要な場合は適宜行う。
- 表のセルの中に、新たな別の表を作らない。
- caption 要素で表題を指定する。(表の直前に見出しがあり、見出しの内容が表題を表しているような場合は指定しなくても良い。)
- 表内の見出しに相当するセルには th 要素を指定する。
- 単純な表で、見出しが行方向に対する見出しか、列方向に対する見出しかあいまいな場合は、表内の見出しに scope 属性を用い、見出しとデータを関連付ける。(1行目や1列目に見出しがある単純なテーブルの場合は、th 要素が指定してあれば scope 属性による指定はなくても良い。)
- 2 つ以上の行見出し及び(または)列見出しのある複雑な表は、id 属性及び headers 属性を用いて、データテーブルのデータセルを見出しセルと関連付ける。
- レイアウトに table 要素を用いる場合は、caption 要素、summary 属性、th 要素などデータ表の構造を表す要素・属性を使用しない。(WCAG 2.0 はレイアウトテーブルの使用を禁止していないが、CSS ベースのレイアウトを推奨している。)

### 【WCAG2.0 達成方法】

H51: 表形式の情報を提示するために、テーブルのマークアップを使用する (HTML)

H39: データテーブルのキャプションとデータテーブルを関連付けるために、caption 要素を使用する (HTML)

H63: データテーブルで見出しセルとデータセルを関連付けるために、scope 属性を使用する (HTML)

H43: データテーブルのデータセルを見出しセルと関連付けるために、id 属性及び headers 属性を使用する (HTML)

### <よくある失敗例>

F46: 達成基準 1.3.1 の失敗例 – レイアウトテーブルで、th 要素、caption 要素、又は空ではない summary 属性を使用している

## ●フォーム

フォームのラベルと対応するコントロール (テキストボックスやラジオボタンなど) を id 属性と label 要素内の for 属性により、関連付けを行う。

input type="checkbox"または input type="radio"の場合は label 要素は input の後に配置する。

例)

```
<p>  
  <input type="radio" name="age" value="over" id="18andover">  
  <label for="18andover">18 歳以上</label>  
  <input type="radio" name="age" value="un" id="under18">  
  <label for="under18">18 歳未満</label>  
</p>
```

キーワード検索のテキストボックスのように、ラベルとなりうるテキストを画面に表示する必要が無い場合や、ラベルを表示することで混乱を引き起こしてしまう場合は、title 属性を用いてコントロール (テキストボックスやラジオボタンなど) の名称あるいは役割を示す。

複数のコントロール (テキストボックスやラジオボタンなど) で構成されるフォームは、fieldset 要素によってグループ化し、legend 要素を用いて、グループのラベルや説明を提供する。

セレクトメニューに含まれる選択肢について、関連する選択肢としてグループ化すべきものがある場合、optgroup 要素を用いて、select 要素内の option 要素をグループ化する。

**【WCAG2.0 達成方法】**

H44: テキストラベルとフォームコントロールを関連付けるために、label 要素を使用する (HTML)

H65: label 要素を使用できない場合に、フォームコントロールを特定するために、title 属性を使用する (HTML)

H71: fieldset 要素及び legend 要素を使用して、フォームコントロールのグループに関する説明を提供する (HTML)

H85: select 要素内の option 要素をグループ化するために、optgroup 要素を使用する (HTML)

●情報の強調を表現する場合

スタイルシートを用いて赤色の太字にするなど視覚的に強調を表現する。

視覚的に強調を表現することに併せて、em 要素あるいは strong 要素を用いて強調部分を指定する。

例) <p>この申込みの締め切りは、<strong>11月14日</strong>です。</p>

**【WCAG2.0 達成方法】**

G138: 色の手がかりを用いるときは必ず、セマンティックなマークアップを使用する

H49: 強調又は特別なテキストをマークアップするために、セマンティックなマークアップを使用する (HTML)

## 達成基準 1.3.2 意味のある順序

【レベル：A】

### ●レイアウト

情報の意味の順序と、スタイルシートを読み込まない状態での表示順序あるいは音声読み上げソフトでの読み上げ順序を一致させる。

視覚的な構成順序と HTML の構成順序を一致させる。

### ●表

音声読み上げソフトで読み上げた場合に、情報を適切に理解できるように表を構成する。  
(行列を入れ替えることにより情報を理解しやすくなる場合がある)

### ●文字間の調整等

レイアウト目的で、単語内にスペースを入れたり、改行 (br 要素) を指定しない。

悪い例) 「場 所」「日 時」「合 計」「資 料」など

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G57: コンテンツを意味のある順序で並べる

C8: 単語内の文字間隔を制御するために、CSS の letter-spacing を使用する (CSS)

#### <よくある失敗例>

F1: 達成基準 1.3.2 の失敗例 - CSS で情報を配置することにより、コンテンツの意味を変えている

F32: 達成基準 1.3.2 の失敗例 - 単語内の間隔を制御するために、空白文字を使用している

### 達成基準 1.3.3 感覚的な特徴

【レベル：A】

#### ●情報の内容や対応関係を形で区別する場合

テキストで情報内容や対応関係を補足するなど、形の識別がつかない場合でも、対応関係が理解できるようにする。

- ▶ ○×△などの記号よりテキストで表現の方が望ましい。どうしても記号で意味を表したい場合は、「○（予約可）」のようにテキストで補足するか、記号の部分を画像にして alt 属性に適切な説明を記載する。
- ▶ 画像の形で機能の違いを表す場合、画像の示す意味を alt 属性で指定する。

#### ●情報の内容や対応関係を位置で区別する場合

位置の識別がつかない場合があるため、基本的に位置を指定した表現は使用しないようにする。どうしても使用しなければならない場合でも、テキストで情報内容や対応関係を補足するなど、対応関係が理解できるようにする。

- ▶ 「右上の画像は・・・」というように、位置で説明を行う場合、「右上の・・・という画像は・・・」などと位置だけでなく画像の alt やキャプションなどから特定できるよう補足する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G96: 理解させる必要のあるアイテムを感覚的にだけ伝えるのではなく、テキストによる識別情報もあわせて提供する

#### <よくある失敗例>

F14: 達成基準 1.3.3 の失敗例 — 形状又は位置のみでコンテンツを特定している

F26: 達成基準 1.3.3 の失敗例 — 情報を伝えるために、グラフィカルなシンボルのみを使用している

## 達成基準 1.4.1 色の使用

【レベル：A】

### ●情報の対応関係を色で区別する場合

テキストで対応関係を補足するなど、色を識別できない場合でも、対応関係が理解できるようにする。

### ●リンクの下線

リンクの下線を消す設定は行わない。どうしても下線の表現を避けたい場合はアイコン等を使用してリンクであることが文字色以外でも認識可能な状態にする。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G14: 色の違いで伝えている情報をテキストでも入手可能にする

G182: 文字色の違いが情報を伝えるために使用される場合に、利用可能な追加の視覚的な手がかりを確保する

G205: 色のついたフォームコントロールのラベルに対して、テキストによる手がかりを含める

#### <よくある失敗例>

F73: 達成基準 1.4.1 の失敗例 — 色覚なしで視覚的にはっきりと分からないリンクを作成する



## 達成基準 1.4.2 音声の制御

【レベル：A】

利用者への通知なしに、自動的に音を再生することはしない。(操作案内, BGM も含む。)

### 【WCAG2.0 達成方法】

G171: 利用者の要求に応じてのみ、音声を再生する

### 達成基準 1.4.3 コントラスト（最低限）

【レベル：AA】

- 太字でないテキストが 18 ポイント（日本語は 22 ポイント）未満，太字のテキストが 14 ポイント（日本語は 18 ポイント）未満の場合

テキスト（及び画像化された文字）の文字色と背景色は，4.5 : 1 以上のコントラスト比を確保する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G18: テキスト（及び文字画像）とその背景の間に，少なくとも 4.5:1 のコントラスト比を確保する

- 太字でないテキストが少なくとも 18 ポイント（日本語は 22 ポイント）以上，太字のテキストが少なくとも 14 ポイント（日本語は 18 ポイント）以上の場合

テキスト（及び画像化された文字）の文字色と背景色は，3 : 1 以上のコントラスト比を確保する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G145: テキスト（及び画像化された文字）とその背景の間に，少なくとも 3:1 以上のコントラスト比をもたせる

色の組み合わせは，色覚に障がいのある利用者也想定した上で，見やすい組み合わせとする。

テキストを含む画像を作成する際は，以下の手順に従って，コントラストや色の組み合わせを確認しながら作成する。

- カラー・コントラスト・アナライザー (<http://webally.jp/tools/cca/>) 等を使用し，コントラスト比が確保されていることを確認する。
- 他のサイトの制作元などから提供されるバナー画像などについても，可能な限り対応する。

## 達成基準 1.4.4 テキストのサイズ変更

【レベル：AA】

各ページのテキストサイズは、ユーザーが自由に変更できるようにするために以下のいずれかを用いて相対的に指定する。(font-size は相対指定でなければならないが、スペース等の調整の箇所については絶対指定でも問題ない。)

- em
- %
- xx-small, x-small, small, medium, large, x-large, xx-large
- smaller, larger

例) `h1 { font-size: 2em; }`

以下の単位は使用しない。

- pt
- px

### 【WCAG2.0 達成方法】

C12: フォントサイズにパーセントを使用する (CSS)

C13: 名前付きフォントサイズを使用する (CSS)

C14: フォントサイズに em 単位を使用する (CSS)

ユーザーがブラウザの機能を用いて拡大した場合でも、文字の内容が読み取れなかったり、リンクの操作ができなかったりということが起きないようにする。(拡大の最大値には制限を設けないことが望ましいが、技術的に難しい場合には上限 200%を基準として対応する。)

### 【WCAG2.0 達成方法】

G146: リキッドレイアウトを使用する

G178: 利用者がウェブページ上のすべてのテキストを 200%まで徐々に変更できるコントロールをウェブページ上で提供する

## 達成基準 1.4.5 文字画像

【レベル：AA】

視覚的なデザインに関し、意図する表現がスタイルシートによって実現可能な場合は、テキストを画像化せずスタイルシートによって実現する。

### 【WCAG2.0 達成方法】

C22: テキストの視覚的提示を制御するために、CSS を使用する (CSS)

## 達成基準 2.1.1 キーボード

【レベル：A】

ホームページ内におけるメニューやリンクの選択、情報の入力、マウスを使わず、キーボード操作だけで利用可能であるように設計する。

- Tab キーでリンクを移動する順序と、文書の意味の順序の間に違いが生じないようにする。
- 入力フォームにおいて、Tab キーで入力項目を移動する順序と、入力項目の意味の順序の間に違いが生じないようにする。
- JavaScript の `dblclick`、`mousemove` など、マウス固有の機能のみで、同等の機能をキーボードから実行できないものは使用しない。

メニューの選択、情報の入力が以下のキー操作で行えることを確認する。（確認の際は、キーボードのみを使用し、マウス操作は行わない。）

- Tab キー（選択候補を順々に移動させる）
- Enter キー（選択する）
- 上下左右の矢印キー（ウィンドウをスクロールさせたり、選択候補を変える）
- 必要に応じてそのほかのキー

上記の作業で、選択候補の移動順序が、ページ内の情報の意味のつながりの順序と異なっていないことを確認する。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G202: すべての機能に対してキーボード制御を確保する

G90: キーボードがトリガーとなるイベントハンドラを提供する

H91: HTML のフォームコントロール及びリンクを使用する (HTML)

SCR2: キーボード及びマウスのイベントハンドラを両方とも使用する (Scripting)

SCR20: キーボードとその他のデバイス固有の機能を両方とも使用する (Scripting)

## 達成基準 2.1.2 キーボードトラップなし

【レベル：A】

ページ内の一部のコンテンツ内から、キーボードのフォーカスが抜け出せないということが起きないようにする。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G21: 利用者がコンテンツ内に閉じ込められないことを確認する

## 達成基準 2.2.1 タイミング調整可能

【レベル：A】

利用者の入力や操作に時間制限を設けない。可能な限り十分な時間を保証すること。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G133: 複数部分で構成されるフォームの最初のページに、利用者がセッションの制限時間を延長又は解除を要求できるチェックボックスを提供する

G198: 利用者が制限時間を解除するための手段を提供する

G4: コンテンツを一時停止させて、一時停止させたところから再開できるようにする

## 達成基準 2.2.2 一時停止，停止，非表示

【レベル：A】

### ●移動する画像・テキスト

表示されているテキストを移動させない。

テキストを含む画像を移動させない。

### ●変化する画像・テキスト

内容が変化する画像（アニメーション GIF など）を作成する場合には，以下の基準に従う。

- 5 秒以内に表示の変化を停止させる，あるいは停止する仕組みを提供する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G4: コンテンツを一時停止させて，一時停止させたところから再開できるようにする

G11: 5 秒未満で点滅するコンテンツを制作する

G187: ユーザエージェントによって点滅するコンテンツを停止できるウェブコンテンツ技術を使用する

G152: (5 秒以内の) 数回のループ後に点滅を停止するように，アニメーション GIF を設定する

SCR22: 点滅を制御し，5 秒以内に停止させるために，スクリプトを使用する (Scripting)

G186: 動きのあるコンテンツ，点滅するコンテンツ，又は自動更新するコンテンツを停止させるコントロールを使用する



## 達成基準 2.3.1 3 回の閃光，又は閾値以下

【レベル：A】

コンテンツのサイズの大きさに関係なく、1秒間に3回を超えて点滅する表現は行わない。  
画面全体または画面の一部を占めるような、縞模様、渦巻き、同心円など、光感受性発作（光源性てんかん）を誘発するおそれのある規則的なパターン模様は使用しない。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G19: どの 1 秒間においても、コンテンツに 3 回よりも多く閃光を放つコンポーネントがないことを確認する

## 達成基準 2.4.1 ブロックスキップ

【レベル：A】

ヘッダーに共通で配置されるリンクやグローバルナビゲーションを読み飛ばし、ページ本文の先頭へジャンプするリンクを全ページに配置する。

コンテンツを適宜見出し分けして、見出し要素でマークアップすることにより、見出し部分を拾い読みした場合に、ヘッダーに共通で配置されるリンクやグローバルナビゲーションを読み飛ばすことができるようにする。

ヘッダーに共通で配置されるリンクやグローバルナビゲーションについて、箇条書き要素 (UL) でマークアップする。

### 【WCAG2.0 達成方法】

- G1: メインコンテンツエリアへ直接移動するリンクを各ページの先頭に追加する
- G123: 繰り返しているコンテンツのブロックの先頭に、そのブロックの末尾へのリンクを追加する
- H69: コンテンツの各セクションの開始位置に見出し要素を提供する (HTML)
- SCR28: コンテンツのブロックをバイパスするために、展開可能及び折り畳み可能なメニューを使用する (Scripting)
- C6: 構造を示すマークアップに基づいてコンテンツを配置する (CSS)

## 達成基準 2.4.2 ページタイトル

【レベル：A】

各ページに必ず title 要素を指定する。

title 要素の内容は、全ページ共通で以下の構成とする。ページ毎に異なるタイトルを記載した後に半角スペースや記号（| など）を挟み、サイトタイトルを記載する。

例) <title>ページタイトル | サイトタイトル</title>

上記の「ページタイトル」の部分には、以下の配慮のある名称を指定する。

- 利用者がページの内容を想像できる（サイトマップや検索結果一覧にある場合など、前後の文脈がなくても意味がわかるようになっている）。
- 利用者が他のページと閲覧中のページを識別できる。

上記の「サイトタイトル」の部分には、以下の配慮のある名称を指定する。

- 原則として「福岡市」という表現を使用する。
- 利用者がサイト全体の内容を想像できる。

複数のページで同じ内容のページタイトルを指定しない。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G88: ウェブページに説明的なタイトルを提供する

H25: title 要素を用いて、ページタイトルを提供する (HTML)

G127: あるウェブページと、より大きな一連のウェブページとの関係性を特定する

※なお、JIS の達成基準に直接は関係しないが、ページタイトルと同じように、ページの内容を想像できるような各ページ個別の meta name="description" を必ず挿入するのが望ましい。

## 達成基準 2.4.3 フォーカス順序

【レベル：A】

Tab キーでリンクを移動する順序と、文書の意味の順序の間に違いが生じないように構成する。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G59: コンテンツ内の順番及び関係に従った順序で、インタラクティブな要素を配置する

H4: リンク、フォームコントロール、及びオブジェクトを通して、論理的なタブ順序を作成する (HTML)

## 達成基準 2.4.4 リンクの目的 (コンテキスト内)

【レベル：A】

リンクテキスト (リンク画像の alt 属性を含む) について以下のいずれかの対応を行なう。

- リンクテキストは、それだけで利用者がリンク先のページの内容を想像できるようにする。
- リンクテキストとそれを含んでいる文章等の文脈から、利用者がリンク先のページの内容を想像できるようにする。

具体的には、以下の (1)、(2) いずれかの対応を行なう。

(1) 以下の対応を行なう。

- リンク先ページの title 要素の内容あるいは、文書の主題などリンク先の内容を代表する言葉を用いる。
- 「こちら」や「ここ」などの指示語だけにリンクを設定しない。
- 視覚的な分かりやすさを考慮し「詳細」「全文」など短いリンクを提供する必要がある場合は、達成方法「G189」または「C7」によってリンクに対する十分な説明を提供する。
- HTML ではないファイル (PDF, Excel, Word など) へリンクしている場合には、リンクテキスト内にファイル容量とファイル形式を明記する。
- リンク先は同じウィンドウに表示することとし、target="\_blank" や JavaScript を用いるなどして新たなウィンドウを開くことは必要最小限にする。新しくウィンドウを開いたほうが内容を参照しやすい場合は、新しいウィンドウで開くことをリンクテキストや画像アイコンの alt で明示する。

例) 介護保険制度の概要 厚生労働省(新しいウィンドウで表示)

(2) リンクテキストの前後の文脈から理解できるようにする。

例) あるページに「予防接種の費用助成を行います。」という文がある。そのうち「費用助成」の部分のみにリンクが設定されているが、文脈からリンク先が「予防接種の費用助成」についてのページであることが予測できる。

※リンクを理解するのに必要な追加情報が、そのリンクよりも前に書かれている場合に役立つことが多い。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G91: リンクの目的を説明したリンクテキストを提供する

H30: a 要素のリンクの目的を説明するリンクテキストを提供する (HTML)

H24: イメージマップの area 要素にテキストによる代替を提供する (HTML)

G189: ウェブページの先頭近くに、リンクテキストを変更するコントロールを提供する

G53: リンクテキストとそれが含まれている文中のテキストとを組み合わせ、リンクの目的を特定する

H33: title 属性を用いて、リンクテキストを補足する (HTML)

C7: リンクテキストの一部を非表示にするために、CSS を使用する (CSS)

H77: リンクテキストとそれが含まれているリスト項目とを組み合わせ、リンクの目的を特定する (HTML)

H78: リンクテキストとそれが含まれている段落とを組み合わせ、リンクの目的を特定する (HTML)

H79: リンクテキストとそれが含まれているデータセル及び関連づけられた見出しセルとを組み合わせ、リンクの目的を特定する (HTML)

H80: リンクテキストと先行する見出し要素とを組み合わせ、リンクの目的を特定する (HTML)

H81: リストが入れ子になっている状態で、親のリスト項目と結合したリンクテキストを用いて、入れ子になったリストの中でリンクの目的を特定する (HTML)

### <よくある失敗例>

F89: 達成基準 2.4.4, 達成基準 2.4.9, 及び 達成基準 4.1.2 の失敗例 – リンクで唯一のコンテンツである画像にアクセシブルな名前 (accessible name) が提供されていない

## 達成基準 2.4.5 複数の手段

【レベル：AA】

サイト内の全ページに、以下を設置する。

- サイトマップへのリンク
- サイト内の全文検索機能

小規模なウェブサイトにおいては、サイト内の全ての情報を探し出すことが可能となるように、ホームページから全てのウェブページへのリンクを提供する。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G63: サイトマップを提供する

G161: 利用者がコンテンツを見つけるのを手助けするために検索機能を提供する

G185: ホームページからサイト上の全てのウェブページにリンクする

## 達成基準 2.4.6 見出し及びラベル

【レベル：AA】

見出しの内容は、章や節などの内容を理解できるものとする。

入力フォームにおける項目名（ラベル）は、その項目の内容を表したものとする。

表示を拡大したり、動画を再生するなどのコントロールを行う機能を提供する場合は、その機能を的確に表した名称（ラベル）を明示する。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G130: 説明的な見出しをつける

G131: 説明的なラベルを提供する



## 達成基準 2.4.7 フォーカスの可視化

【レベル：AA】

TAB キーで操作した場合に、ページ内のリンクテキストやリンク画像、フォーム等の選択候補を視覚的に認識可能であることを確認する。

スタイルシートを用い、Tab キーで選択候補を変更した際にリンクを反転表示するなど視覚的に分かりやすく変化するよう設定する。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G149: フォーカスを受け取るときに、ユーザエージェントによって強調されるユーザインタフェース コンポーネントを使用する

C15: ユーザインタフェースコンポーネントがフォーカスを受けとったときの表示を変更するために、CSS を使用する (CSS)

### 達成基準 3.1.1 ページの言語

【レベル：A】

各ページの html 要素に lang 属性及び（又は） xml:lang 属性を指定することで、文書の初期設定言語を特定する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

H57: html 要素の言語属性を使用する (HTML)

## 達成基準 3.1.2 一部分の言語

【レベル：AA】

本文中でページを構成する主要言語（通常は日本語）以外の言語が現れる場合には、そのつど使用している HTML または XHTML のバージョンに応じて、lang または xml:lang 属性を用いて言語の変化を明示する。ただし固有名詞、技術用語、言語が不明な語句、及びすぐ前後にあるテキストの言語の一部になっている単語又は語句は例外とする。

### 【WCAG2.0 達成方法】

H58: 自然言語の変更を指定するために、言語属性を使用する (HTML)

## 達成基準 3.2.1 フォーカス時

【レベル：A】

ページ内の全てのコンテンツについて、フォーカスを受け取った際に、自動的に状況の変化が起きないようにする。

- 入力フォームについて、送信ボタンがフォーカスを受け取った際に、自動的に送信されることがないようにする。
- リンクやリンク画像などについて、フォーカスを受け取った際に、自動的にページが遷移したり新しいウィンドウが開いたりしないようにする。
- プルダウンメニューなどについて、フォーカスを受け取った際に、自動的にページが遷移したり新しいウィンドウが開いたりしないようにする。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G107: 状況の変化に対するトリガーとして、“focus”ではなく、“activate”を使用する

G200: 必要なときにのみリンク先を新しいウィンドウ及びタブで開く

G201: 新しいウィンドウを開くときに、利用者へ事前に知らせる

## 達成基準 3.2.2 入力時

【レベル：A】

利用者が意図的に実行操作することなしに、フォーム入力内容の送信がされたり、新しいウィンドウが開かれたりすることがないようにする。

### 【WCAG2.0 達成方法】

G80: 状況の変化を開始する送信ボタンを提供する

H32: 送信ボタンを提供する (HTML)

H84: アクションを実行するために、select 要素とともにボタンを使用する (HTML)

### 達成基準 3.2.3 一貫したナビゲーション

【レベル：AA】

システム要件などでやむを得ない場合を除き、すべてのページに共通のグローバルナビゲーションを配置する。

ヘッダー及びフッター、グローバルナビゲーションなど、サイト全体で共通に提供するナビゲーションのリンクは、ページの中での配置位置、リンクの表示順序を同じとする。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G61: 毎回同じ相対的順序で繰り返されるコンポーネントを提示する

## 達成基準 3.2.4 一貫した識別性

【レベル：AA】

同じ機能を持ったコンテンツについて、名称（ラベル）、視覚的な表現をサイト全体で同一とする。

- 多くのページで提供されるリンク（サイトマップへのリンク、トップページへ戻るリンク、ページの上端へ移動するリンクなど）
- リンク画像、リンクに添えられるアイコン画像
- 箇条書きの先頭などに用いられる画像

### 【WCAG2.0 達成方法】

G197: 同じ機能を有するコンテンツに対して、一貫したラベル、名前（name）及びテキストによる代替を使用する、かつ、達成基準 1.1.1 を満たすことのできる達成方法かつ達成基準 4.1.2 を満たすことのできる達成方法に従ってラベル、名前（name）、テキストによる代替を提供する

### 達成基準 3.3.1 エラーの特定

【レベル：A】

必須の入力項目に入力が行なわれていない場合、その箇所を通知する説明文を提供する。  
特定の形式や値の入力が求められる項目に誤った入力が行なわれた場合、そのことを通知する説明文をテキストで提供する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

- G83: 入力完了していない必須項目を特定するために、テキストの説明を提供する
- G84: 利用者が許可された値のリストにない情報を与えた場合に、テキストの説明を提供する
- G85: 利用者の入力が要求されたフォーマット又は値の範囲外の場合に、テキストの説明を提供する



## 達成基準 3.3.2 ラベル又は説明

【レベル：A】

### ●ラベル

コントロール（テキストボックスやラジオボタンなど）の目的を的確に表すラベルを提供する。

フォームのラベルと対応するコントロール（テキストボックスやラジオボタンなど）を id 属性と label 要素内の for 属性により、関連付けを行う。

input 要素の type="checkbox" と type="radio" では、label 要素をその後に配置する。

例)

```
<p>
  <input type="radio" name="age" value="over" id="18andover">
  <label for="18andover">18 歳以上</label>
  <input type="radio" name="age" value="un" id="under18">
  <label for="under18">18 歳未満</label>
</p>
```

#### 【WCAG2.0 達成方法】

H44: テキストラベルとフォームコントロールを関連付けるために、label 要素を使用する (HTML)

複数のコントロール（テキストボックスやラジオボタンなど）が並列の関係で提供される場合は、fieldset 要素及び legend 要素を用いて複数のコントロールがひとまとまりのグループであることを示すとともに、そのグループの名称あるいは説明を提供する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

H71: fieldset 要素及び legend 要素を使用して、フォームコントロールのグループに関する説明を提供する (HTML)

キーワード検索の入力ボックスのように、視覚的に入力欄の目的が明確で、ラベルを画面に表示することによりかえって視覚的なデザインが阻害され分かりにくくなること

想定される場合は、label 要素を用いず title 属性を用いてコントロール（テキストボックスやラジオボタンなど）の目的を説明する。

**【WCAG2.0 達成方法】**

H65: label 要素を使用できない場合に、フォームコントロールを特定するために、title 属性を使用する (HTML)

G167: テキストフィールドの目的をラベル付けするために隣接するボタンを用いる

## ●入力に関する説明

入力方法や入力に関する制約がある場合は、入力欄の前に説明を配置する。特に以下のような制約事項がある場合は明記する。

- 入力の必須／未必須
- 入力文字数
- カタカナ／ひらがな
- 全角／半角
- 大文字／小文字
- ハイフン(-)の必要／不要

**【WCAG2.0 達成方法】**

G131: 説明的なラベルを提供する かつ、次のどれか一つを用いる

G89: 期待されるデータ書式及び入力例を提供する

G184: フォーム又はテキストフィールド一式の先頭に、必須の入力を記述するテキストの説明を提供する

G162: 関係性を最大限に予測できるようにするためにラベルを配置する

G83: 入力が完了していない必須項目を特定するために、テキストの説明を提供する

H90: label 要素又は legend 要素を使用して、必須のフォームコントロールを明示する (HTML)

### 達成基準 3.3.3 エラー修正の提案

【レベル：AA】

修正候補を提示可能な入力項目については、入力エラーが起きた際に、修正候補を提示する。

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G83: 入力完了していない必須項目を特定するために、テキストの説明を提供する

G85: 利用者の入力が要求されたフォーマット又は値の範囲外の場合に、テキストの説明を提供する

G84: 利用者が許可された値のリストにない情報を与えた場合に、テキストの説明を提供する

G177: テキストの修正候補を提示する

### 達成基準 3.3.4 エラー回避（法的，金融，データ）

【レベル：AA】

送信前に，フォーム入力内容の確認画面を提示する。

利用者が必要に応じて，送信前に修正を行えるようにする。（入力画面へ戻るリンクを用意するなど。）

#### 【WCAG2.0 達成方法】

G98: 送信する前に，利用者が回答を確認及び修正できるようにする

## 達成基準 4.1.1 構文解析

【レベル：A】

※1. 基本要件「構築に用いる技術」の内容を参照

### 【WCAG2.0 達成方法】

G134: ウェブページをバリデートする

G192: 仕様に完全に準拠する

H88: 仕様に準じて HTML を使用する (HTML)

## 達成基準 4.1.2 名前 (name) ・役割 (role) 及び値 (value)

【レベル：A】

※1. 基本要件「構築に用いる技術」の内容を参照

### 【WCAG2.0 達成方法】

下記の技術固有の達成方法を用いて、

G108: 名前 (name) 及び役割 (role) を公開し、利用者が設定可能なプロパティを直接設定可能にして、変化の通知を提供するために、マークアップを用いる:

H91: HTML のフォームコントロール及びリンクを使用する (HTML)

H44: テキストラベルとフォームコントロールを関連付けるために、label 要素を使用する (HTML)

H64: frame 要素及び iframe 要素の title 属性を使用する (HTML)

H65: label 要素を使用できない場合に、フォームコントロールを特定するために、title 属性を使用する (HTML)

H88: 仕様に準じて HTML を使用する (HTML)

## 3. ホームページ構築・運営上必要な取組み

「2. ウェブアクセシビリティ対応基準」に基づき、JIS X 8341-3:2016 適合レベル AA 準拠の実現を目指すとともに、「みんなの公共サイト運用ガイドライン」を参照し、アクセシビリティ方針の策定・公開、取組内容及び実現内容の確認・公開、実現内容の確認（試験）・公開を行う。

### ●参照すべき文書等

みんなの公共サイト運用ガイドライン（総務省 2016 年版）

([http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/guideline.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html))

### 3.1 アクセシビリティ方針の策定・公開

「みんなの公共サイト運用ガイドライン」は、国及び地方公共団体等公的機関が作成・運用する全てのウェブコンテンツについてアクセシビリティ方針を策定し公開することを求めている。

福岡市ホームページ (<http://www.city.fukuoka.lg.jp>) は、広報課にて「福岡市ウェブアクセシビリティ方針」を策定し、公開している。

(参考) アクセシビリティについて

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/sub/accessibility.html>

各部署が独自に作成・管理運営するホームページについては、担当課にてそれぞれのウェブアクセシビリティ方針を策定し、公開する。

具体的な手法は【みんなの公共サイト運用ガイドライン】5. ウェブアクセシビリティ方針の策定と公開 (44～61 ページ) を参照すること。

※アクセシビリティ方針の検討にあたっては広報課で内容の確認・アドバイスを行うため、事前に相談すること。

#### ●参照すべき文書等

みんなの公共サイト運用ガイドライン (総務省 2016 年版)

([http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/guideline.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html))

ウェブアクセシビリティ方針策定ガイドライン (ウェブアクセシビリティ基盤委員会)

(<https://waic.jp/docs/jis2016/accessibility-plan-guidelines/201604/>)



### 3.2 取組内容及び実現内容の確認・公開

「みんなの公共サイト運用ガイドライン」は、自治体や官公庁等が作成・運用する全てのウェブコンテンツについて、1年に1回「ウェブアクセシビリティ取組確認・評価表」を使ってアクセシビリティに関する取組の内容を確認し、評価結果を公開することを求めている。

この取組内容の確認と公開は、各ホームページでアクセシビリティへの取り組みを段階的に進め、向上させていくために活用するものである。

福岡市ホームページ (<http://www.city.fukuoka.lg.jp>) は、広報課にて取組内容を評価し結果を公開している。

(参考) ウェブアクセシビリティに関する取組内容の確認と公開

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/sub/accessibilitytorikumikakunin.html>

各部署が独自に作成・管理運営するホームページについては、担当課が「個々のホームページの取組確認・評価表」を使って評価を行い各サイトで公開する。

具体的な手法は【みんなの公共サイト運用ガイドライン】7. 取組内容及び実現内容の確認と公開（121～127 ページ）を参照すること。

※評価の考え方や具体的な手法については、広報課に相談すること。

【参考】「個々のホームページの取組確認・評価表」(様式)

ホームページ名称		団体名(非営利法人)		団体名(非営利法人)		評価実施年月日										
URL																
掲載種別	ガイドライン	適用モジュール番号	0点		1点		2点		3点		4点		備考	ポイント集計値 小計 中計	満点 ポイント	
			0点	1点	2点	3点	4点									
掲載種別	ガイドライン	6.2.1	団体として策定した共通のガイドラインがない、またはガイドラインがあるかどうか分からない	団体として策定した共通のガイドラインの存在は知られていない	団体として策定した共通のガイドラインを一箇所で掲載している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用している	団体として策定した共通のガイドラインに則って運用している				
	職員研修	6.2.2	過去3年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施していない、又は参加していない	過去3年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加した	過去2年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加した	過去1年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加した	過去1年以内にアクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加した	毎年アクセシビリティに関する職員研修を実施、又は参加しており、半年度以降も実施する予定である						0	15	
	検閲	6.2.3	過去3年以内にアクセシビリティに関する検閲を実施し、問題点を把握していない	過去3年以内にアクセシビリティに関する検閲を実施し、問題点を把握した	過去2年以内にアクセシビリティに関する検閲を実施し、問題点を把握した	過去1年以内にアクセシビリティに関する検閲を実施し、問題点を把握した	過去1年以内にアクセシビリティに関する検閲を実施し、問題点を把握した	毎年アクセシビリティに関する検閲を実施し、問題点を把握しており、半年度以降も実施する予定である								
	改善	6.2.3	過去3年以内に、公開しているページの改善に取り組んでいない	過去3年以内に、公開しているページの改善に取り組んだ	過去2年以内に、公開しているページの改善に取り組んだ	過去1年以内に、公開しているページの改善に取り組んだ	過去1年以内に、公開しているページの改善に取り組んだ	公開しているページの改善に毎年取り組んでおり、半年度以降も実施する予定である								
表現内容の検閲と公開	取組の表現内容	7.1	過去3年以内にアクセシビリティに関する取組内容について取組検閲・評価表により確認し、結果をホームページで公開していない	過去3年以内にアクセシビリティに関する取組内容について取組検閲・評価表により確認し、結果をホームページで公開した	過去2年以内にアクセシビリティに関する取組内容について取組検閲・評価表により確認し、結果をホームページで公開した	過去1年以内にアクセシビリティに関する取組内容について取組検閲・評価表により確認し、結果をホームページで公開した	毎年アクセシビリティに関する取組内容について取組検閲・評価表により確認し、結果をホームページで公開しており、半年度以降も実施する予定である							0	8	
	アクセシビリティの実現内容	7.2	過去3年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 0341-3に基づき検閲し、結果をホームページで公開していない	過去3年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 0341-3に基づき検閲し、結果をホームページで公開した	過去2年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 0341-3に基づき検閲し、結果をホームページで公開した	過去1年以内にアクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 0341-3に基づき検閲し、結果をホームページで公開した	毎年アクセシビリティの実現内容について、最新のJIS X 0341-3に基づき検閲し、結果をホームページで公開しており、半年度以降も実施する予定である									
利用者との協議	利用者の意見収集	8.3.3	一般的な意見収集としては取り組んでいないが、アクセシビリティについては積極的に意見収集している	アクセシビリティについて積極的に意見収集に取り組んでいる	継続的手段により、アクセシビリティについて積極的に意見収集を継続的に取り組んでいる	継続的手段により、アクセシビリティについて積極的に意見収集を継続的に取り組んでいる	継続的手段により、アクセシビリティについて積極的に意見収集を継続的に取り組んでいる									
	利用者との協力関係・ユーザー評価	4.3.7 8.2.4	アクセシビリティを確保・維持・向上のために、利用者(社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む)の協力を求めたことがない	利用者(社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む)の協力を求めたことがある	継続的にアクセシビリティを確保・維持・向上のために、利用者(社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む)の協力を求めたことがある	継続的にアクセシビリティを確保・維持・向上のために、利用者(社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む)の協力を求めたことがある	継続的にアクセシビリティを確保・維持・向上のために、利用者(社会福祉協議会、当事者団体、支援団体等を含む)の協力を求めたことがある							0	8	
													合計	0	30	

※職員研修、検閲等の取組について、関係団体の取組に参加することで評価対象とされた場合は、個々のホームページ等の取組として評価します。  
 ※関係団体ホームページ等の取組により、一部の評価項目が該当しない場合があります。その場合は、該当しない項目を除外して評価します。該当しない項目がある場合は、満点ポイントに該当してはなりません。  
 ※「取組の実現内容」について、初めて「取組検閲・評価表」を用いて取組の検閲・評価を行った年は、3点とします。

●参照すべき文書等

みんなの公共サイト運用ガイドライン (総務省 2016 年版)

([http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/guideline.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html))

### 3.3 実現内容の確認（試験）・公開

「みんなの公共サイト運用ガイドライン」は、ウェブアクセシビリティの実現内容について、1年に1回、JIS X 8341-3:2016に基づく試験により確認し、結果を各団体ホームページ等で公開することを求めている。

「試験」により、策定・公開したウェブアクセシビリティ方針に基づき、対象としたページが、JIS X 8341-3:2016に対応できているかを確認する。

福岡市ホームページ (<http://www.city.fukuoka.lg.jp>) は、広報課にて試験を行い、結果を公開している。

(参考) JIS X 8341-3:2016 附属書 JB に基づく試験結果表示

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/shicho/koho/shisei/jisx-8341-3.html>

各部署が独自に作成・管理運営するホームページについては、担当課で試験を行い、結果を公開する。

具体的な手法は【みんなの公共サイト運用ガイドライン】7. 取組内容及び実現内容の確認と公開（128～130 ページ）を参照すること。

※試験の考え方や具体的な手法については、広報課に相談すること。

#### ●参照すべき文書等

みんなの公共サイト運用ガイドライン（総務省 2016 年版）

([http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/b\\_free/guideline.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html))

JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン（ウェブアクセシビリティ基盤委員会）

(<https://waic.jp/docs/jis2016/test-guidelines/201604/>)

JIS X 8341-3:2016 「附属書 JB（参考）試験方法」